

Monthly Report

Vol.39 広報室

平成21年8月28日発行

目次:

| | |
|--------------------|---|
| シマノレーシングが本学で合宿開催 | 1 |
| 海を越えて輝く学生たち | 2 |
| オープンキャンパス | 3 |
| 就職ガイダンス 事務職員研修会 | 4 |
| 李 靚熙氏 ボブスレーOB | 5 |
| 滝口町長表敬訪問 | 6 |
| 漕艇部の活躍 | 7 |
| トライアスロン部 | 8 |

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
土生佐多 200
伊東宏之 271
Email:kouhou@scn.ac.jp

シマノレーシングが本学で低酸素トレーニングキャンプ実施



日本のロードレース界をリードする「シマノレーシング」が8月10～21日の日程で本学の常圧低・高酸素室を使用しながら、トレーニングキャンプを実施しました。

内丸講師が同チームのトレーニングアドバイザーを務めていることから、今回の実現に至り、内丸講師指導

のもと、安全に十分配慮しながらトレーニングは進められました。

トレーニングは主に大学半径150km圏内で行なわれ、トレーニング以外の時間のほとんどを標高2500m相当の酸素濃度(15.4%)の低い低酸素室に入って生活することで、心肺機能を高める目的(いわゆる高地トレーニング)で行なわれており、寝ている時も低酸素の状態が続くため、選手は熟睡できない日々が続いたようです。また、18日には標高2500mに相当する酸素濃度の状態で20分間にわたって高強度を維持するトレーニングを行い、終了後に乳酸量の測定が行なわれるなどして、科学的なトレーニングを実施しました。

期間中は運動栄養の学生が練習に帯同させて頂き、食事のサポートやトレーニング中に水分や栄養(補給食)を手渡すなどしました。また、トレーナーコースの学生が、チームの専属トレーナー活動の様子を見学し、プロチームの実際の現場を体験しました。

シマノレーシングのホームページでも合宿の様子がアップされています。下方に4つの本学関連記事が動画とともに掲載されていますので、URLをクリックしてご覧下さい。

http://blog.shimanoreport.jp/blog/2009/08/post_ad6c.html



海を越えて輝く学生達 Summer 2009

～海外研修終了 ハワイ州立大学・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校～

(1) ハワイ州立大学での「AT(アスレティックトレーニング)アドバンスドコース」及び「英語研修」



Monthly Report前号でご紹介しました通り、8月22日からハワイ州立大学(UH)において渡会先生・広報室佐藤の引率のもと、AT(アスレティックトレーニング)アドバンスドコースに参加した体育学科3年生の佐竹彬(あきら)さん・村上拓矢さんの2名が12日に、また、鎌田先生の引率のもと、今回初めてUHアウトリーチ校における英語の「NICE」プログラムに参加した体育学科2年生の山口有映(なおあき)さん、同1年生の安部翔子さん、スポーツ情報マスメディア学科2年生の高橋悠(ゆう)さん3名が23日に、それぞれ全ての講義・実習を終え無事に帰国しました。

現地では、5名全員が前号で取り上げた本学の卒業生である鈴木のぞみさん・鈴木理恵さんとの「座談会」に参加し、本学初のATC(アメリカ公認アスレティックトレーナー資格)を取得したのぞみさんや、それを目指して勉学に励む理恵さんから、ハワイでの苦労談や英語をマスターする方法など、体験者ならではの貴重なお話しに食い入るように聞き入っていました。

英語研修に参加した学生の声

山口さん

「来年参加しようと考えているATスクーリングに向けて、英語の基礎を勉強しておきたいと思って英語研修に参加しました。レベルに合わせたクラスでの講義だったので、大変勉強になりました。」

安部さん・高橋さん

「英語研修をより良いプログラムにするために、宿泊先をホテルではなく、ホームステイや外国人が多く住む寮にする事を提案したいです。日常会話など、直に英語で会話できる機会が増え、更に学べると思います。」

(2) カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での「運動栄養セミナー」

運動栄養学科では、アメリカにおける運動栄養の実情と課題を学ぶ初めての試みとして、8月16日～23日まで、加賀洋平新助手の母校であるカリフォルニア州立大学ロングビーチ校において「運動栄養セミナー」が実施されました。

参加したのは小浜先生を団長に柳先生、津吉先生、竹内晴子新助手、広報室佐藤の引率のもと、同学科4年生の井上幹太(かんた)さん、古谷悠子(ゆうこ)さん、3年生の高橋杏奈(あんな)さん、2年生の高橋絢子(あやこ)さん、千葉龍太(りゅうた)さん、1年生の小坂円(まどか)さん、佐々木文(あや)さんの7名です。

5日間に渡るプログラムでは、アメリカの大学における各競技選手達に必要な栄養やその摂取の指導方法を学ぶだけでなく、実際に選手が競技をしている現場に出向いての視察など、普段、自分達が授業で今すぐ役立つような充実した時間を過ごしました。また、教えていただくだけではなく最終日には、同大学の関係者の前で栄養サポートをしている様子などを英語でプレゼンテーションし、さらには感謝の気持ちを込め日本から持参したはっぴ姿も凛々しく「よさこい」も披露しました。修了式でその様子を終始笑顔で見守っていたシャロン・ガスリー キネシオロジー学科長は「すばらしい発表と踊りでした。この短期間で私達が彼らから逆に学んだことは大変多く、また是非仙台大学でみなさんにお会いしたいです。」とおっしゃっていました。

学生の声

高橋さん、小坂さん

「米国の大学では学生に指導する専門の栄養士が常駐しており、本学の栄養管理システムに似たようなものを使って学生自身がパソコンで栄養を確認することや、プログラム内で栄養士から直接指導してもらえるシステムとなっていました。学生への説明も科学的な裏付けがある数値で示されるので、学生側も理解しやすく、栄養に対する意識を更に高めているようでした。」

今回、語学力の必要性を感じました。通訳を通じて現地の方から話を伺いましたが、もっと学生や先生に直接話しかけ、色々な事を聞きたかったです。」



学生たちは多くのことを現地で学び、それぞれの目標ができたようです。これから更に国際交流の芽が増える事が期待されます。

オープンキャンパスお疲れ様でした



8月8日(土)にオープンキャンパスを開催し、生徒・保護者あわせて1000名を超える来場を頂きました。

10時からのオリエンテーションでは、元Jリーグ浦和レッズ選手(現:浦和レッドダイヤモンズ広報部)の内舘秀樹氏をはじめ、卒業生4名から「OB・OGからのメッセージ」として講演いただきました。4名それぞれの職場での活躍や大学での経験が今に生かされていること、本学在学中のエピソードなど、経験談などをお話いただきました。

この他、仙台大学ならではの各学科、特徴ある施設・設備を使った体験会や模擬講義、入試相談会などを実施し、高校生達に大学生活や卒業後の

イメージしていただけたのではないかと思います。

オープンキャンパスに参加した河南高校の本城君は「部活動と勉学を両立させたいと親に相談したら、仙台大学がよいのではないかとという事で、今回参加しました。今は健康福祉学科に興味があるので、仙台大学の同窓生の先生に相談して進路を決めたいと思います。」と話していました。

なお、内舘氏より大学にサイン入りユニフォームを寄贈いただきました。学長室に飾ってありますのでご覧ください。



タイ国 シーナカリンウィーロート大学より若手研究者を招聘

8月24日 9月7日の日程で、本学と国際交流協定を提携しているシーナカリンウィーロート大学から若手研究者Tanormsak Senakham(タム セカハム)氏を招聘し、本学施設を使って研究活動を行なっています。



就職ガイダンス(臨時)開催



8月4日(火)にB300教室において4年生対象の就職ガイダンスが開催されました。今回のガイダンスは、昨年秋からの深刻な経済不況により就職戦線が例年以上に厳しい状況にあることから、臨時で開催されたもので、約200名の4年生が参加しました。

はじめに入試創職委員会・創職作業チームリーダーの山内教授より、昨年の夏休み前における就職内定率が首都圏で80%であったが、今年は60%まで落ち込んでいること、2009年度の年次経済財政報告(経済財政白書)で金融危機による景気の急激な悪化を受けて、企業の余剰人

員となっている「企業内失業者」が1980年以降で最悪の最大607万人に上ることが告げられた後、「企業の募集人員が減少傾向で、秋の企業の採用が縮小する事が予想される。今、動かなかつたら社会に向けての第一歩がうまく踏み出せない。行動・決定するのは君達。」と学生を叱咤激励しました。

就職活動を継続している学生向けに、毎日コミュニケーションズの橋本氏より「今までよりも採用側が学生に求める基準が高くなっており、上場企業や製造業では徹底して質を重視している」との話や、「面接でも、昨年までは採用するか迷った時は採用するスタンスだったが、今は迷ったら採用しないスタンスに変わった」などの話や、就職活動をスムーズに進めるための効果的な情報収集方法等についての指導がされました。現在の就職戦線の状況を再確認し、学生たちは就職意欲を高めたようでした。



平成21年度 朴沢学園事務研修会開催



8月10日～11日に「さんさ亭」において平成21年度朴沢学園事務研修会が開催され、法人事務局11名、明成高校12名(職員・実習助手)、大学73名(職員・新助手・臨時職員)の総勢96名が参加し、研修を行いました。

今年度は中房教授が執筆された「大学の歴史からみたFD制度化の道程と課題」(平成21年度仙台大学導入演習教材)が事前に配布され、参加者全員が目を通した上での研修が行われました。中房准教授を講師に招き「SDカフェへようこそ」と題された研修では、1班7名編成で13班に分かれ、大学の事務職員として求められる資質向上のために自分たちがすぐにできること、そのためには何が必要か、今後の提案など、SDに関する様々な考えをKJ法を用いて、班ごとに話し合い、発表しました。



元韓国代表の柔道指導者 李 馥熙(イ・ボクヒ)氏が第39回全日本実業柔道個人選手権大会に出場



8月29 - 30日に尼崎市記念公園総合体育館で開催される「第39回全日本実業柔道個人選手権大会」に本学柔道部指導者の李馥熙(イ・ボクヒ)氏が仙台大学柔道クラブ所属で出場します。李氏は韓国代表として01年のハンガリー国際大会、02年の韓国国際大会での優勝をはじめ、多くの国際大会で上位入賞を果たしており、04年のアテネ五輪にも出場している実力者です。今は第一線から退いているものの、韓国の国内大会には度々出場しており、今年4月の韓国実業個人選手権では63kg級を制し、8月の韓国実業団体選手権も団体戦優勝しています。日本の国内大会出場は初めてですが、日本の同階級で5本の指に入る選手が2人も出場しているこの大会で、ベテランである李氏が若手とどのような戦いをするのか、たいへん楽しみです。

ボブスレーオリンピック代表候補選手が本学で合宿



(写真：左から本間南選手、鈴木寛選手、菊池善範選手、土井川真二選手、長岡千里選手)

8月1、2日に、ボブスレーの鈴木寛さん、土井川真二さんをはじめとするナショナルチームに属する5選手が本学のプッシュトラックでのトレーニングのため来訪しました。来月、再来月にある長野での全日本合宿を前に、プッシュ(ソリを押す動作)の本数をこなし、体を慣らす事が目的でした。2日間とも天候に恵まれ、満足のいく練習ができたそうです。

鈴木寛(すずき・ひろし)選手

1973年12月13日生まれ、札幌市出身。今金中時代は、陸上3種競技で中体連道大会優勝。室蘭大谷高では、野球部の外野手として3年の道大会準V。仙台大からボブスレーをはじめ。94年リレハンメル、98年長野、ソルトレークシティー五輪代表。マネックスFX所属。

オリンピックシーズンなので、先月行なわれた合宿でもナショナルチームの皆が目の色を変えて練習に取り組んでいるので良い結果が出るのではないかと期待している。バンクーバーオリンピックでのメダルを目指して、遠征で世界ランキングを

取りにいきたい。

ボブスレー・リュージュスケルトン部の後輩達には、現役のボブスレー選手が少ないので、ボブスレーの魅力である「迫力」や個人競技では味わえない「チームワーク」、「歓びの共有」を知ってもらいたい。

仙台大の学生には、どんな競技でも精一杯頑張ってもらいたい。オリンピック出場も目標として持てるのだから夢を諦めずチャレンジできる学生生活を過ごしてもらいたい。

土井川真二(どいがわ・しんじ)選手

1979年10月25日生まれ、札幌出身。野球で培った身体能力を活かし、仙台大学にて、ボブスレーをはじめ。2002年ソルトレークオリンピックに出場。02~03シーズン、06~07シーズン、07~08シーズンに、全日本選手権優勝。日本レストランシステム株式会社所属。

ボブスレー競技は10月 12月からオリンピック出場の枠を取る戦いが始まります。前回のトリノオリンピックでは日本男子チームは2人乗りでの出場だけで、4人乗りでの出場が叶いませんでした。4人乗りの出場権獲得とオリンピックの代表になることを目標にしてチームに貢献できるように全力を尽くしたい。

後輩達にもバンクーバーオリンピック出場の可能性が十分あるので、ボブスレー競技ではこれまでのオリンピックに仙台大学関係者が出場しているので、この伝統を途切らせないように頑張ってもらいたい。

漕艇部インカレ結果



8月20日 23日に埼玉県戸田漕艇場で開催された第36回全日本大学選手権大会（インカレ）において、本学漕艇部は男子舵手つきフォアで優勝。男子エイト、男子舵手なしフォア、女子

舵手なしペアの3種目で第2位となり、安定した成績を残しました。

男子種目は日本大学がタイトルを独占。唯一、本学が舵手つきフォアを制して一矢報いました。大会期間中、漕艇部に運動栄養サポート研究会が帯同し、水分や補助食提供を行って選手を支えた他、23日には柴田町の熱烈なファンの方々44名が駆けつけ、大きな声援で選手を後押ししていただきました。



西村光生がU23世界選手権で銀メダル獲得の快挙

～男子軽量級舵手なしフォアでのメダル獲得は日本クルー初～



7月23 26日にボートのU23（23歳以下）世界選手権がチェコで開催され、漕艇部の西村光生さん（体育学科2年）が出場した男子軽量級舵手なしフォア日本代表クルーが見事、「銀メダル」を勝ち取りました。現地ではかつてない日本クルーの大活躍に沸いていたそうです。

西村選手は男子軽量級フォアの主力として活躍。U23世界選手権のメダリストは、各国のシニア（トップカテゴリー）チームと掛け持ちする選手も多く、非常にレベルの高いレースです。また、この種目はオリンピック種目でもあり、日本クルーとしてメダル獲得は初めてのことです。

高校時代には世界ジュニア選手権大会で舵手なしクオドルプルで9位、アジアジュニア選手権大会ダブルスカルで優勝経験を持つ。仙台大学には高校の先輩である池田恒平さん（平成21年3月卒）からの熱心な誘いと、監督の阿部肇講師の存在が大きかったので進学を決めたと話す。

西村光生さん

現在は部員との寮生活だが、部内の雰囲気がとても良く、良い環境で練習ができています。

今大会では目標は1桁の9位以内に入るという目標だったが、現地に入るとクルーの調子が上がって最高の状態で大会に望めた結果2位。この種目で日本クルーはじめてのメダル獲得となった。タイムは6分4秒で、この成績は世界のトップ選手と十分に戦えるもの。今後の課題の一つは体力面で、筋肉量が少なく、柔軟性がないこと。日頃から筋力トレーニングと柔軟体操を課し基礎的な体を強くすることを課題にあげている。もう一つは、テクニック面ではキャッチ(オールを水に入れる動作)が疎かになっている事。阿部監督の指導と先輩の菅井竜介のフォームを見本としてテクニック向上に努めていく。

仙台大学漕艇部には見本となる先輩と良い指導者がいるので、自分にとって最高の環境で練習に取り組んでいる。8月20日からのインカレでのエイト種目優勝と、その先のロンドンオリンピック出場を目標にしている。やるからにはトップを目指しているので、金メダルを目指す。応援してくれる家族や大学の仲間の期待に応えられる様に頑張っていきたい。

トライアスロン インカレ結果

8月23日、香川県観音寺市有明海水浴場に於いて日本学生トライアスロン選手権大会（インカレ）が開催され、男子で上村昌志さん（体育学科3年）が15位、中原康雄さん（体育学科3年）が26位、女子では千葉智美さん（体育学科4年）が17位と健闘しました。

特に男子の2人、上村さんは一昨年112位、昨年74位、中原さんにいたっては一昨年の大会に出場できず、昨年も出場権こそ獲得したものの最初のスイムでの145位の後の途中棄権と、これまではあまり良い成績が残せなかった中、今年は一転、この一年間の急成長をバネに15位、26位とともに上位進出を果たしました。

トライアスロン部の主将でもある上村さんに話を聞きました。

- インカレ15位、お疲れさまでした。



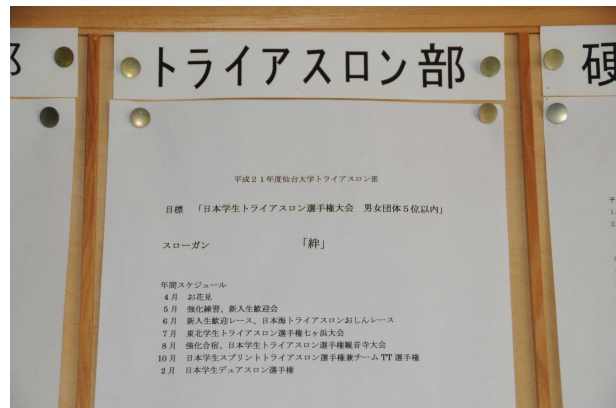
『（最終種目である）4周回するランの3周終了までは12位だったのですが、残り2.5kmで3人にかわされ最終的に15位だったので、成績には満足している部分と、悔しさの両方を感じています。悔しさは来年に返そうと思っています。』

- 上村君、中原君ともに昨年からの急成長していますが、練習方法を変えたとか、何か理由があるのでしょうか？

『みんなで話し合い、今年の部の目標を「男女インカレ団体5位以内」、さらに今年の部のテーマを「絆」に決めました。この「団体5位以内」という目標を実現し、「絆」というテーマを実践するため、全体ミーティングの回数を昨年よりも多くし、そのことで誰でも何でも言い合えるような部の雰囲気になったことが一番の要因だったと考えています。』

- 部内の体質の改善のおかげで、技術的、体力的な面以上に、お互いのメンタルな部分が大きく成長したと言うわけですね。

『はい、さらに自分には昨年74位に終わった悔しさがありました。おそらく中原にも昨年途中棄権した自分以上の悔しさがあったと思います。』



- しかしメンタル面だけでは記録は伸びないと思いますが？

『自分は高校時代は競泳をやってきました。この1年間は苦手なランのタイムを縮めるため集中的にランのトレーニングを行ってきました。中原は高校時代はサッカー部に所属していました。彼は逆に走る事が得意でした。この1年間、彼は苦手なスイムを克服するためのトレーニングを積んできたはずですよ。』

- 山本和実さん（平成21年卒）、千葉智美さん（体育学科4年）という女子のダブルエースの存在も刺激になったのでは？

『その通りです。特に山本和実さんの場合、同じ日に猪苗代で行われた「うつくしまトライアスロンinあいづ（兼日本選手権東北予選）」に出場することがわかっていたので、レース中も「共に頑張ろう!!」と言う意識が働き、そういう意味でも大きな励みになりました。』

- 来年はコーチを務められているOBの朝川洋明氏（平成13年卒）のインカレ個人総合12位、さらには平成11年の男子団体6位という本学トライアスロン部のレコードの更新という大きな目標が見えてきていますが？

『はい。期待に応えられるよう、頑張ります。教職員のみなさま、ご声援宜しく願いいたします。』

しっかりと来年を見据え答えてくれた上村さん。トライアスロン部の益々の活躍が期待されます。尚、記事内に登場した山本和実さんはうつくしまトライアスロンinあいづ（兼日本選手権東北予選）に於いて、見事東北ブロック1位となり10月の日本選手権出場を決めております。併せて、彼女の健闘もお祈りいたします。

体操競技インカレ結果

8月19 - 22日に群馬県総合スポーツセンターにおいて第63回全日本学生体操競技選手権大会が行われ、団体総合で男子が第4位、女子が第6位に入りました。男子個人総合は宗像 陸(体育学科2年)の9位が最高で、種目別では亀山 耕平(体育学科3年)が「あん馬」を制して金メダルを獲得し、宗像 陸が「ゆか」と「跳馬」で2位、平行棒で7位入賞しました。この大会はU21強化指定の選考もかかっており、宗像 陸と石原 大(体育学科2年)の両名が個人総合「予選」と「決勝」の合計点で上位12位以内に入り、U21強化指定を受けました。

第63回 全日本学生体操競技選手権大会

| 順チーム名 | ゆか | あん馬 | つり輪 | 跳馬 | 平行棒 | 鉄棒 | 合計 |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| 1 日本体育大学 | 74.650 | 72.400 | 71.850 | 77.850 | 75.200 | 74.500 | 446.450 |
| 2 順天堂大学 | 71.550 | 68.400 | 71.900 | 77.700 | 73.850 | 72.400 | 435.800 |
| 3 日本大学 | 71.400 | 69.200 | 71.200 | 76.500 | 72.500 | 73.600 | 434.400 |
| 4 仙台大学 | 72.900 | 69.700 | 70.800 | 77.250 | 71.050 | 70.500 | 432.200 |
| 5 筑波大学 | 71.400 | 68.200 | 67.950 | 76.150 | 71.750 | 70.950 | 426.400 |

明成高校体操部の躍進

高大連携を進めている明成高校体操部の吉本日月さん(健康スポーツコース2年)がインターハイで男子個人総合17位に入り、来年3月に開催される第26回全国高等学校体操競技選抜大会への出場権を獲得しました。この選抜大会は、ジュニア強化指定選手の選考と全日本選手権大会の個人出場の予選を兼ねた大会で、インターハイで上位22位に入った高校1、2年生に出場権が与えられるものです。

明成高校体操部男子は創部4年。団体総合でもこれまでの最高成績となる10位に入り、全国上位入賞も目指せるチームと成長しています。

また、吉本日月さんは8月15 - 17日に横浜文化体育館で開催された全日本ジュニア体操競技選手権大会の男子1部個人総合で14位に入り、大友さつきさん(健康スポーツコース2年)が女子2部個人総合で優勝しています。本大会結果により、吉本日月選手が、ジュニア強化指定選手として選考されました。

体操部

男子団体総合 第10位
 男子個人総合 吉本日月 17位、
 下道 拓 43位、仰郁人 52位、
 鈴木大地 80位

女子個人総合 大友さつき 46位
 (ジュニア強化指定選手選考基準が日本体操協会公式ブログに載っているのご参照ください。)

<http://www.plus-blog.sportsnavi.com/jpngym/article/263>

その他、明成高校インターハイ結果

男子バスケットボール部 ベスト8

| | | | |
|------|--------|--------|-----|
| 1回戦 | 対 慶応 | 111対56 | で勝利 |
| 2回戦 | 対 市船橋 | 99対75 | で勝利 |
| 3回戦 | 対 山形中央 | 94対62 | で勝利 |
| 準々決勝 | 対 北陸 | 84対88 | で敗退 |

陸上部

| | | |
|------------------|------------|------|
| 円盤投げ | 小原雅貴 | 第5位 |
| 記録 | 48m18、中坂大樹 | 予選敗退 |
| 男子1500m | 村山紘太 | 第16位 |
| 記録 | 4分0秒96 | |
| 男子3000m障害 | 池田紀保 | 予選敗退 |
| < 明成高校ホームページより > | | |